



Sun A. Kaken

**第113期(2022年3月期)
決算説明会**

株式会社 サンエー化研

2022年6月7日

目次

1. 第113期(2022年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第114期(2023年3月期)業績予想と今後の施策

- 翌期業績予想
- セグメント別の業績予想(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

目次

1. 第113期(2022年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第113期決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2020年3月期末 (第111期末)	2021年3月期末 (第112期末)	2022年3月期末 (第113期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	20,075	22,420	22,570	149	0.7%
現金預金	6,341	7,147	7,296	148	2.1%
売上債権	10,341	11,628	10,671	▲956	▲8.2%
棚卸資産	3,274	3,605	4,269	663	18.4%
その他	117	39	332	293	742.4%
固定資産	11,552	13,567	13,376	▲191	▲1.4%
有形固定資産	6,520	7,325	7,060	▲264	▲3.6%
無形固定資産	27	54	47	▲7	▲13.6%
投資その他の資産	5,004	6,188	6,268	80	1.3%
資産合計	31,627	35,988	35,946	▲42	▲0.1%

第113期決算概要：連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（単位：百万円）

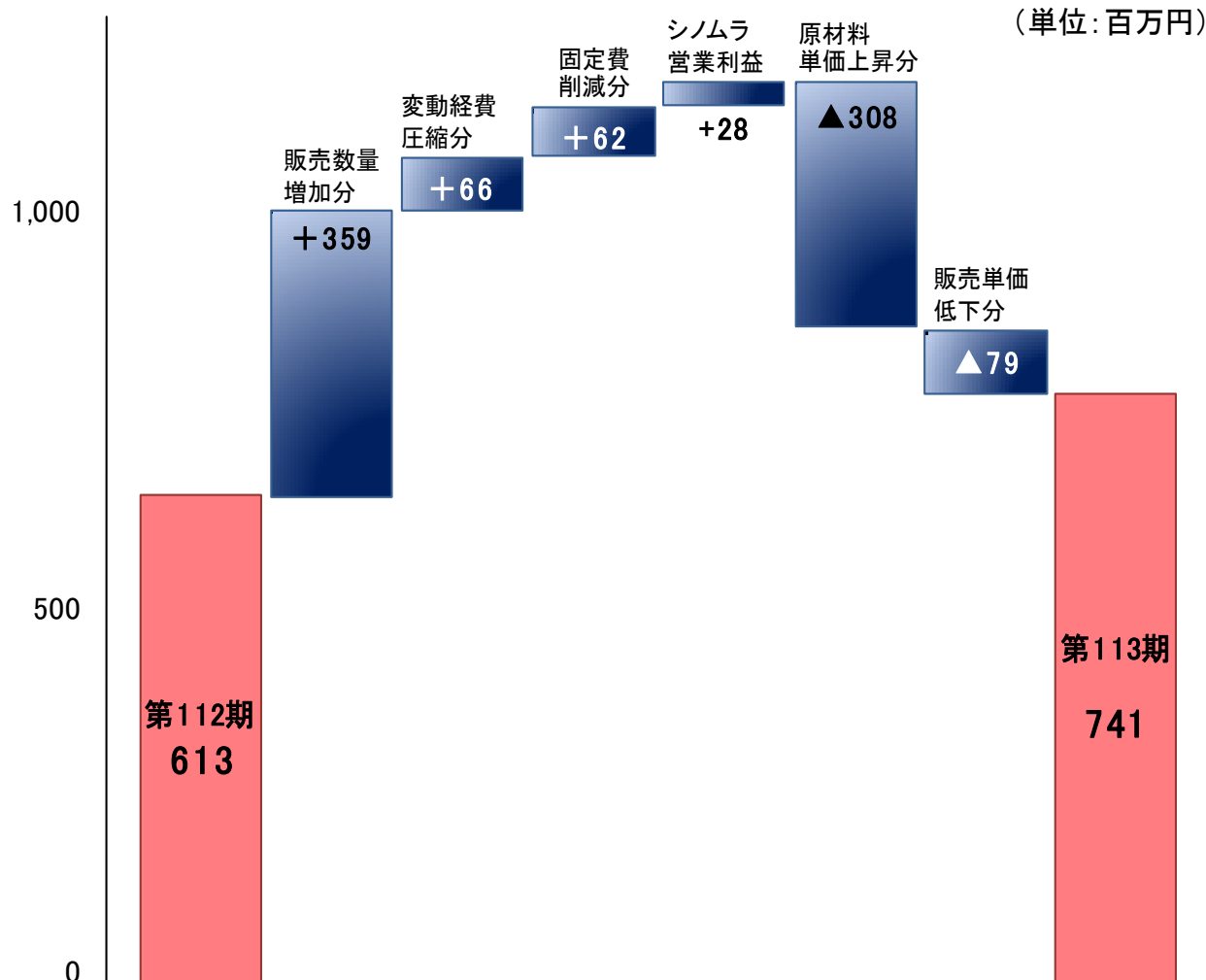
科 目	2020年3月期末 （第111期末）	2021年3月期末 （第112期末）	2022年3月期末 （第113期末）	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,303	12,625	12,085	▲539	▲4.3%
仕入債務	6,148	6,888	7,019	131	1.9%
短期借入金	4,120	3,470	3,530	60	1.7%
その他	2,034	2,267	1,536	▲731	▲32.2%
固定負債	1,982	3,503	2,932	▲571	▲16.3%
長期借入金	355	1,393	1,364	▲28	▲2.1%
その他	1,627	2,110	1,567	▲543	▲25.7%
負債合計	14,286	16,129	15,017	▲1,111	▲6.9%
純資産	17,341	19,859	20,928	1,069	5.4%
負債及び純資産合計	31,627	35,988	35,946	▲42	▲0.1%

第113期決算概要: 連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	2020年3月期 (第111期)	2021年3月期 (第112期)	2022年3月期 (第113期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,698	29,986	28,674 (32,110)	(2,124)	(7.1%)
売上原価	26,480	26,275	24,769 (28,203)	(1,928)	(7.3%)
売上総利益	3,217	3,711	3,904	193	5.2%
販売費及び一般管理費	3,036	3,097	3,162	64	2.1%
営業利益	181	613	741	128	21.0%
営業外収益	284	330	298	▲32	▲9.7%
営業外費用	628	37	66	29	78.4%
経常利益	▲161	906	973	67	7.4%
特別利益	1	469	615	145	31.0%
特別損失	1,133	64	12	▲52	▲80.8%
税金等調整前当期純利益	▲1,294	1,311	1,576	264	20.2%
税金費用他	43	210	61	▲149	▲71.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	▲1,338	1,101	1,515	414	37.7%

第113期決算概要：営業利益の要因分解



販売面においては、販売数量の増加が+3億59百万円の増益要因となりましたが、比較的低価格の製品の売上比率が高くなったことで平均販売単価が低下し、▲79百万円の減益要因となりました。

費用面においては、当期半ばより原材料価格が上昇したことで▲308百万円の減益要因となりましたが、外注委託の抑制による変動経費圧縮で+66百万円、子会社（ペンリード）の清算その他で固定費削減を果たした結果+62百万円、それぞれ増益要因となりました。

また、上記要因に前期半ばに子会社化したシノムラ化学工業の営業利益28百万円が加わり、連結営業利益は1億28百万円の増益となりました。

目次

2. 各セグメントの概況

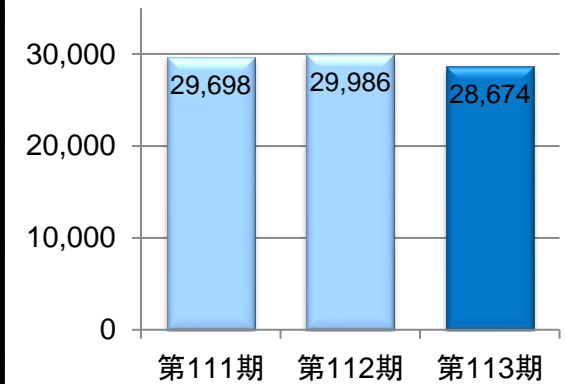
- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

各セグメントの概況: セグメント別業績内訳

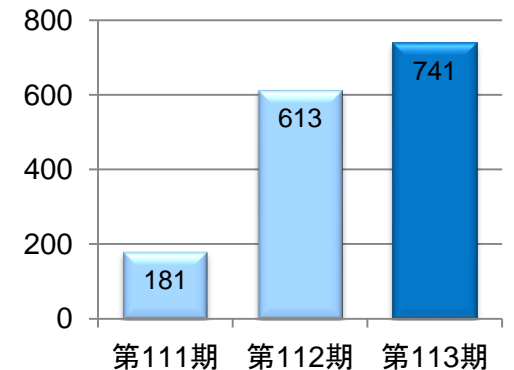
(単位: 百万円)

科目/ セグメント	2020年3月期 (第111期)	2021年3月期 (第112期)	2022年3月期 (第113期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,698	29,986	28,674 (32,110)	(2,124)	(7.1%)
軽包装材料	11,760	12,000	11,285 (12,617)	(616)	(5.1%)
産業資材	7,300	8,967	9,464 (11,536)	(2,569)	(28.7%)
機能性材料	10,040	8,581	7,639 (7,658)	(▲922)	(▲10.7%)
その他	596	437	283 (297)	(▲139)	(▲32.0%)
営業利益	181	613	741	128	21.0%
軽包装材料	253	397	338	▲58	▲14.7%
産業資材	▲547	▲236	▲84	151	—
機能性材料	487	466	484	17	3.8%
その他	▲12	▲14	2	17	—

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



※第113期の括弧内は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品製造業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

食品用包材

売上高
5,391百万円



「レンジD○!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい
- 環境対応包材のニーズ高まる

収益性・成長性

- コロナ禍で「レンジD○!」の需要拡大
- 業務用包材の需要回復に期待

医薬品・医療用包材

売上高
1,893百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。「テクニフィルム」の拡販に期待。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

収益性・成長性

- 高防湿医薬品包材の需要拡大
- 高齢化の進行で医療分野は成長期待

日用品等の包材

売上高
4,000百万円



多様な製品展開で受注変動リスクに対応。独自製品の開発・拡販に注力。

市場環境

- 環境対応包材の引き合い増加
- 高機能・利便性のニーズ高い
- 一般包材は競争厳しい

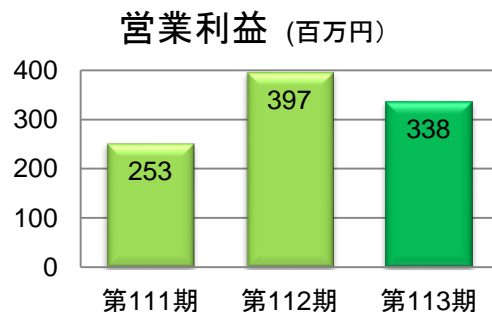
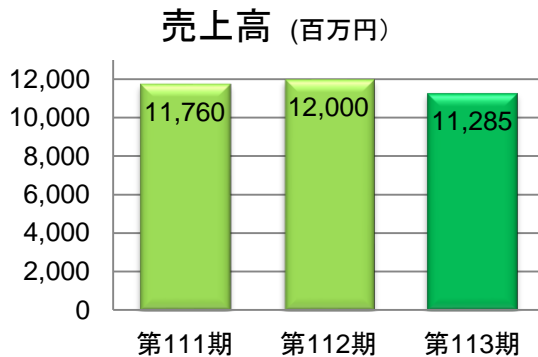
収益性・成長性

- 詰替え用パウチは多様化で競争厳しく
- 耐内容物包材は潜在需要見込める
- 環境対応製品開発を進め新市場を開拓

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料

- 売上高：11,285 百万円 ※売上高下段は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値
(12,617 百万円 前期比 5.1% 増)
- 営業利益：338 百万円 (前期比 14.7% 減)

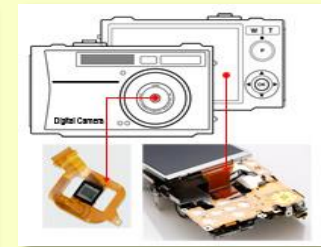


- 食品用包材は、コロナ禍長期化による巣ごもり需要と従来タイプからの切替えが進み、電子レンジ対応食品包材「レンジDo!」が好調であったが、他の食品用包材は低調。
- 医薬品・医療用包材は、高防湿PTP包材用フィルム「テクニフィルム」をはじめ、全般的に受注回復。
- 日用品等の包材は、エア緩衝材と化粧品関連の不調が続くも、ハンドソープ、消毒液等の詰替え用パウチが好調。その他の包材も受注堅調。
- 売上高は従来基準で増収となったが、夏以降の原材料費高騰の影響を受け、減益。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材セグメント

粘着テープ基材及び各種剥離紙の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



東邦樹脂工業



シノムラ化学工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

紙・布へのラミネート製品

売上高 3,814百万円



主に粘着テープ用基材をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 重包装袋：約900百万m²/年
- 紙テープ用：約420百万m²/年
- 布テープ用：約200百万m²/年

市場環境

- 紙テープの国内生産量は横ばい
- 海外品OPPテープとも一部競合

収益性・成長性

- 一般品は生産数量の確保が課題
- 布テープは防災用途で需要増が期待
- シノムラ化学工業子会社化により布テープ用基材のシェア拡大、競争優位に
- 樹脂代値上がりによる収益への影響大

剥離紙

売上高 5,650百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約2,700百万m²/年

市場環境

- 国内ユーザーの海外移転一服で国内需要は底打ち

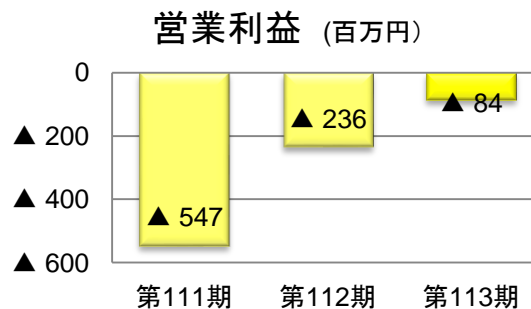
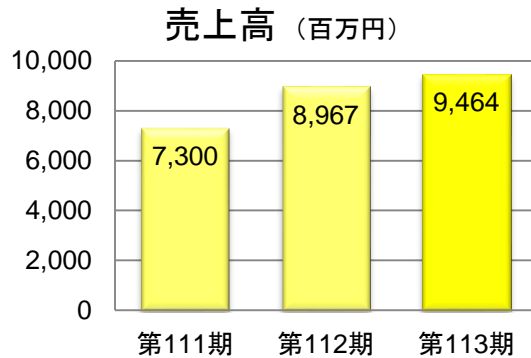
収益性・成長性

- 一般用途は競争厳しい
- 自動車関連部材用の拡販に期待
- メディカル用途の拡充を目指す
- FPC用工程紙は成長過程にあるも、IT業界の動向による受注変動大

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材

■ 売上高：9,464 百万円 ※売上高下段は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値
 （11,536 百万円 前期比 28.7% 増）
■ 営業利益：▲84 百万円 （前期実績 ▲236百万円）

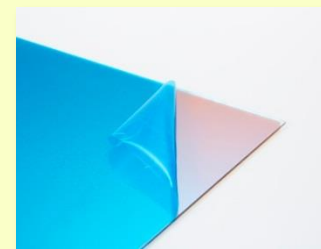


- 紙・布へのラミネート製品については、防災用品としての養生用テープの市場拡大と物流の回復に伴う梱包用テープの需要増加により、受注回復。
- 剥離紙については、新型コロナと半導体不足の影響でPOPラベル関連及び自動車関連部材向けが低調。FPC（フレキシブルプリント基板）用工程紙は、上期に新規採用が増えるも、下期に入り減速。
- 上記要因に加え、2020年10月に連結子会社化したシノムラ化学工業の業績が通期で寄与し、大幅増収。
- 夏以降の原材料費高騰の影響を受け、黒字回復ならず。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

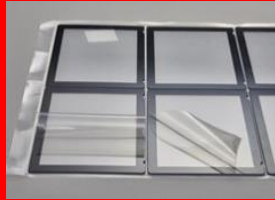
オレフィン系粘着加工品

売上高 3,021百万円

サニテクト
(粘着塗工タイプ)



PAC
(2層押し出しタイプ)



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

粘着塗工タイプ

- 約300百万m²/年
(光学用途)

2層押し出しタイプ

- 約900百万m²/年
(光学用途)

収益性・成長性

粘着塗工タイプ

- 品種により他社製2層タイプとも競合
- 一般用途は国内市場縮小で需要が減少傾向
- 光学用途はPC・タブレット向けの需要が堅調

2層押し出しタイプ

- 偏光板用途は一定の需要が見込まれ、品質面の差別化でシェアUPも可能
- 強粘着タイプの拡販が課題

その他の粘着加工品

売上高 4,618百万円

SAT、
サニテクトNS
その他
(PET基材タイプ他)



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

精密塗工タイプ

- 約500百万m²/年
(光学用途)

収益性・成長性

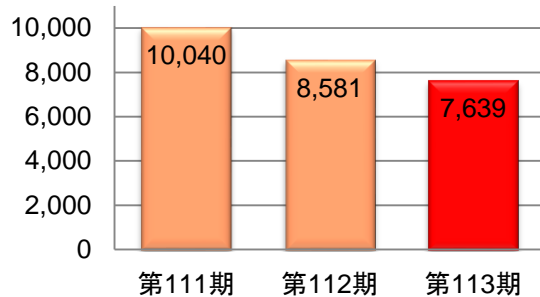
- 液晶テレビ向けの需要は、中国の新型コロナの影響により当面不透明
- スマートフォン関連は5G対応による需要が期待
- テレワーク・オンライン授業の普及に伴い、PC・タブレット向けは需要堅調

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

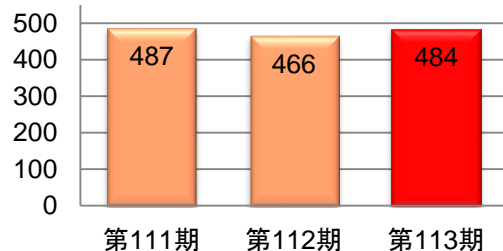
機能性材料

- 売上高：7,639 百万円 ※売上高下段は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値
(7,658 百万円 前期比 10.7% 減)
- 営業利益：484 百万円 (前期比 3.8% 増)

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



- オレフィン系粘着加工品については、自動車メーカーの減産の影響を受けるも、テレワーク・オンライン授業の普及により、「サニテクト」が増収。「PAC」についても光学用途の回復に伴い、スマートフォン関連案件が伸長し、増収。
- その他の粘着加工品については、PET基材の「サニテクト」NSタイプの拡販が進展するも、半導体供給不足の影響と長鼎電子材料との資本関係解消により、「SAT」の受注が減少し、減収。
- 失注した「SAT」の多くは低収益品につき採算面の影響軽微。他方で増収となったオレフィン系が貢献し、増益。

目次

3. 第114期(2023年3月期)業績予想と今後の施策

- 翌期業績予想
- セグメント別の業績予想
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

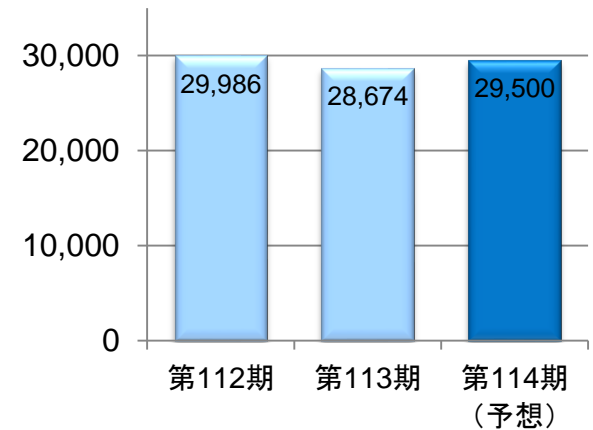
第114期業績予想と今後の施策：翌期業績予想

(単位：百万円)

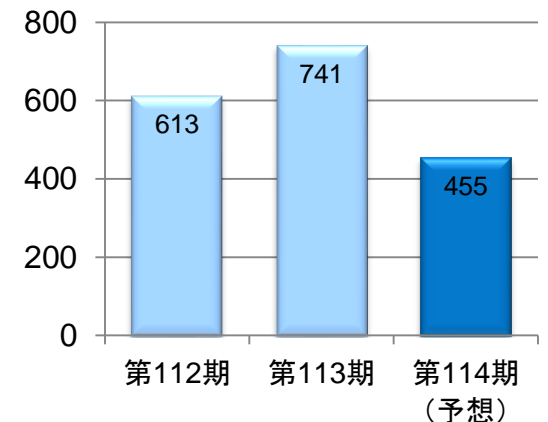
科目／セグメント	2021年3月期 (第112期)	2022年3月期 (第113期)	2023年3月期 (第114期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,986	28,674 (32,110)	29,500	825	2.9%
軽包装材料	12,000	11,285 (12,617)	11,500	214	1.9%
産業資材	8,967	9,464 (11,536)	9,700	235	2.5%
機能性材料	8,581	7,639 (7,658)	8,000	360	4.7%
その他	437	283 (297)	300	16	5.8%
営業利益	613	741	455	▲286	▲38.7%
経常利益	906	973	600	▲373	▲38.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,101	1,515	420	▲1,095	▲72.3%

※第113期の括弧内は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



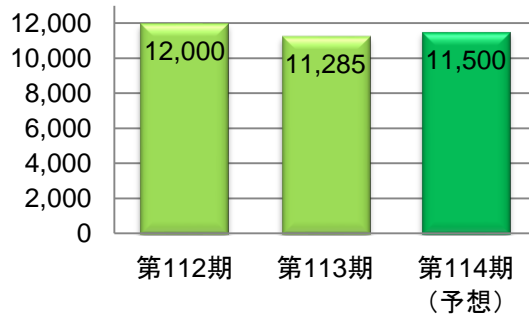
第114期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（軽包装材料）

軽包装材料

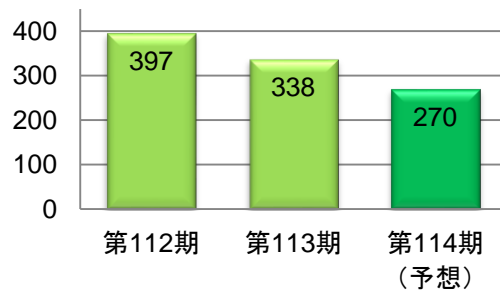
【第114期業績予想】

- 売上高： 11,500 百万円（当期比 1.9% 増）
- 営業利益： 270 百万円（当期比 20.3% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 新型コロナウイルスの影響の長期化が予想される中、電子レンジ対応食品包材「レンジD○！」や消毒液、ハンドソープ用詰替えパウチは引き続き堅調な受注が見込まれる。
- 一方、清涼飲料用パウチ、医薬品・医療用包材、化粧品用包材、エア緩衝材等は、今後の新型コロナウイルスの収束に合わせて徐々に回復する見込み。
- 増収を見込むも、ウクライナ危機の長期化による原材料費の更なる上昇が見込まれ、減益の見通し。

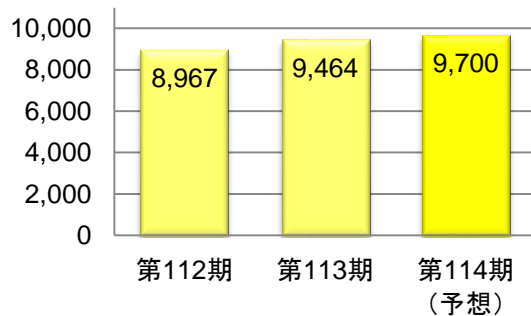
第114期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（産業資材）

産業資材

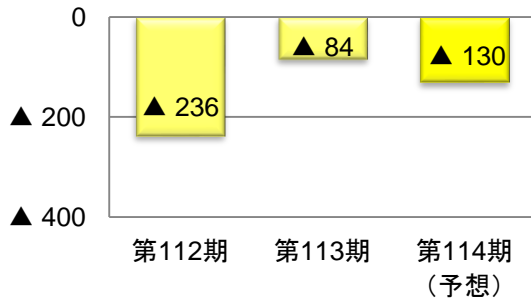
【第114期業績予想】

- 売上高： 9,700 百万円（当期比 2.5% 増）
- 営業利益：▲130 百万円（当期実績 ▲84 百万円）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- テープ用基材については、養生用テープ向けは当期並み。梱包用テープ向けは物流の回復に加え、一部テープメーカーの自社生産撤退の動きもあり有利な環境へ。
- 剥離紙については、半導体不足の影響が当面続くと思われ、自動車部品関連やFPC用工程紙の回復は鈍いと予想。ラベル用等の一般用途は回復の見込み。
- シノムラ化学工業との協調体制の整備を進め、収益改善を目指すも、ウクライナ危機の長期化による原材料費の更なる上昇が見込まれ、赤字継続の見通し。

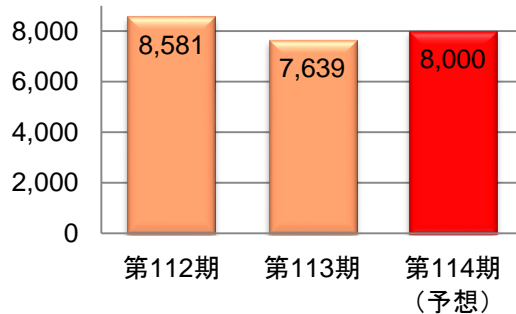
第114期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（機能性材料）

機能性材料

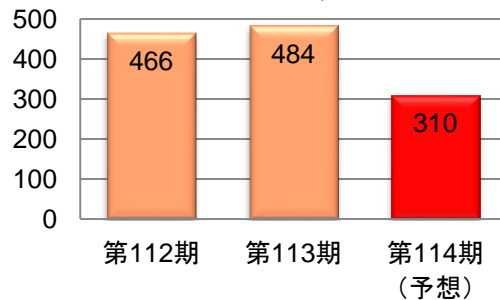
【第114期業績予想】

- 売上高： 8,000 百万円（当期比 4.7% 増）
- 営業利益： 310 百万円（当期比 36.0% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

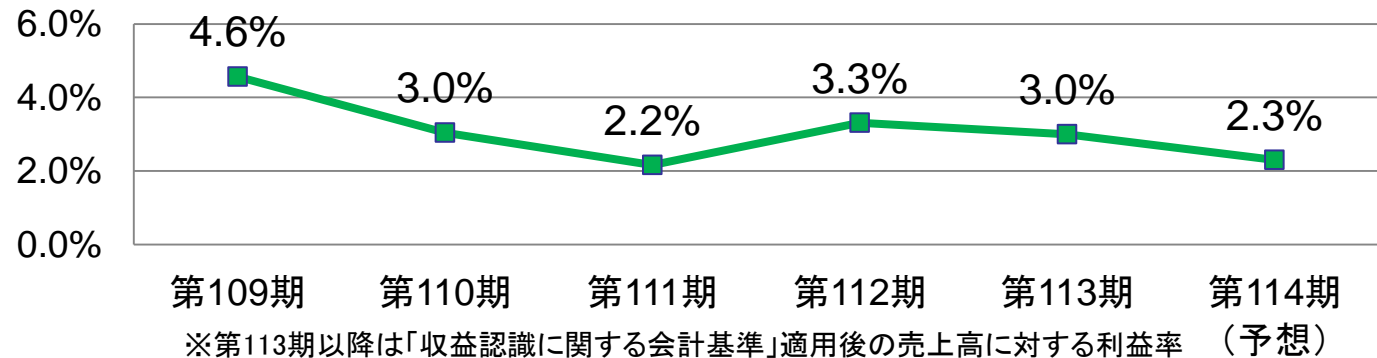


- 「サニテクト」は、パソコン、タブレット向けで堅調な需要が見込まれるうえ、主要メーカーの銘柄統廃合と大幅値上げの動きにより切替需要が期待。一方、中国のゼロコロナ政策の影響が需要の押下げ要因となる恐れあり。
- 長鼎電子材料の出資持分売却による影響で、中国・台湾市場の偏光板用保護フィルムは苦戦の見込み。
- スマートフォン市場は、5G対応により成長が期待されており、その分野で「SAT」の増収を見込む。
- 原材料費の更なる上昇が見込まれ、減益の見通し。

第114期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（軽包装材料）

軽包装材料

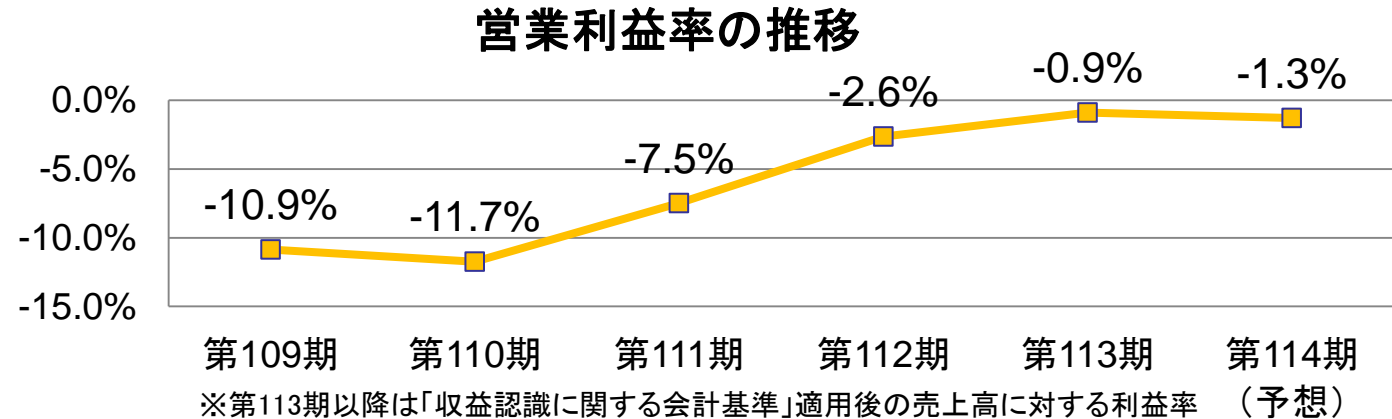
営業利益率の推移



- 市場ニーズと環境の変化に対応し、安定した収益を上げうる体質づくりを進める
- 「レンジDo！」については、大手食品メーカーとの協業を進めるとともに、小規模メーカーでの採用に向け、規格袋のラインアップを拡充し、更なる増収を図る。
- 耐内容物包材やエア緩衝材については、新たな用途開発を推進するとともに、既存製品の改良・改善を進め、売上回復に努める。
- 今後ますます活発化する環境保護への取組みに対応し、環境負荷の低い原材料への切替えやリサイクルしやすいモノマテリアル（単一素材）化を推進する。

第114期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（産業資材）

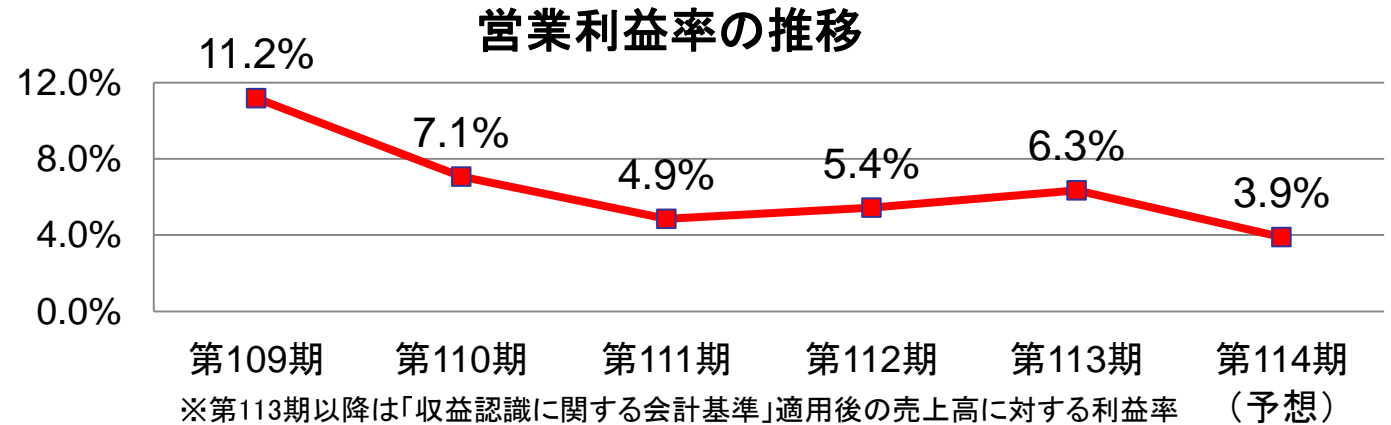
産業資材



- 高収益分野への展開と生産体制の再構築によって、収益構造の転換を図る
- 子会社化したシノムラ化学工業との協調体制を整備し、生産及び物流の最適化と仕入・販売面を含むシナジー創出により、収益改善を図る。
- 掛川工場WESTの特長であるクリーンな生産環境を活かした製品比率を高め、同工場の収益力を強化して、当セグメントの主力工場への早期転換を図る。
- 今後も成長が見込まれるIT関連、自動車関連、メディカル分野に向け製品展開を推進するとともに、炭素繊維関連製品や環境対応製品の開発にも注力する。

第114期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（機能性材料）

機能性材料



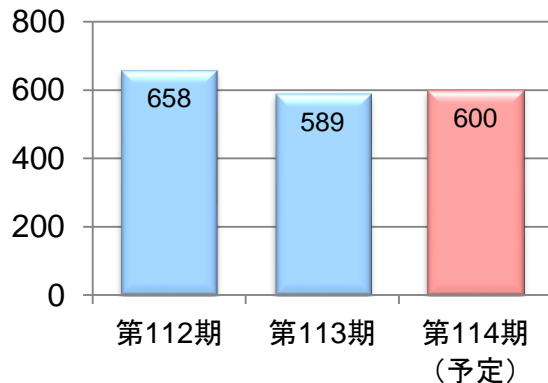
- 技術・品質・顧客対応の強化によって、安定的に高収益を維持する
- 顧客密着型の開発態勢を継続し、将来の受注機会を確保するとともに、顧客要求を通じて市場のトレンドを見極め、迅速に対応することで競合他社に先行する。
- 長鼎電子材料の出資持分売却の影響が見込まれるも、掛川工場製「SAT」をスマートフォン・タブレット向け中小型の高機能品へ特化することでカバーする。
- 「PAC」については、高品質化により他社品との差別化を図り、受注増を目指す。
- 抗菌・抗ウイルス製品「バイプロ[□]テープ」に続く新製品を開発し、収益向上を図る。

第114期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

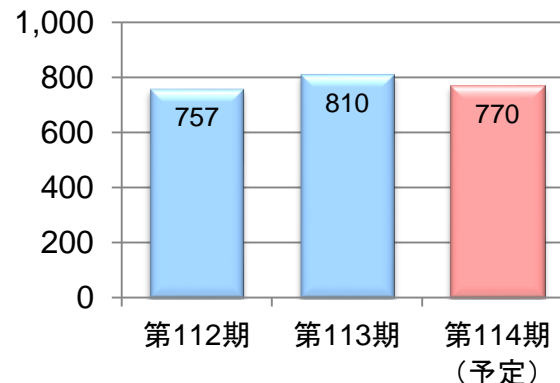
(単位：百万円)

科目	2021年3月期 (第112期)	2022年3月期 (第113期)	2023年3月期 (第114期) (予定)	備考
設備投資額	658	589	600	従来水準を維持
減価償却費	757	810	770	第113期の設備投資抑制及び納期長期化による影響
研究開発費	428	417	420	従来水準を維持

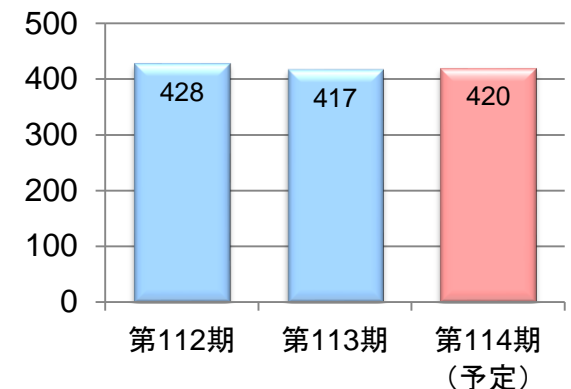
設備投資額 (百万円)



減価償却費 (百万円)



研究開発費 (百万円)



目次

4. 参考情報

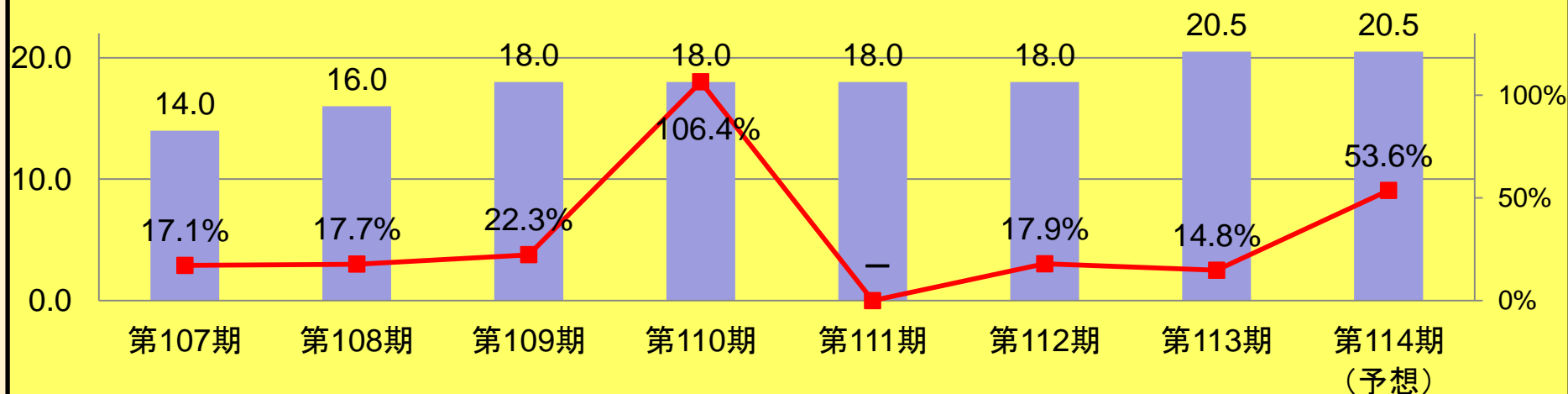
- トピックス
- 基本情報

参考情報: トピックス 1

■ 創立80周年記念配当

本年9月2日に当社創立80周年を迎えるにあたり、これまでご支援いただいた株主の皆様へ感謝の意を表し、2022年度中に年間5円の記念配当(2022年3月期の期末配当2.5円、2023年3月期の中間配当2.5円)を行う予定としております。

年間配当金および配当性向(連結)の推移



参考情報: 基本情報

2022年3月31日現在

商 号
 証 券 コ ー ド
 設 立 者
 代 表 所
 事 業 所

株式会社 サンエー化研
 4234 (JASDAQ スタンダード) 【4月4日より東証 スタンダード】
 1942年9月 (昭和17年9月)
 代表取締役社長 山本 明広
 本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4
 営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋
 【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)
 生 産 拠 点 : 静岡、袋井 (2カ所 内1カ所は連結子会社 シノムラ化学
 工業(株) 本社工場)、掛川(2カ所)、天理、野木 (連結子
 会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)

研究開発拠点 : 掛川

資 本 金
 事 業 内 容
 連 結 従 業 員 数
 決 算 期

21億76百万円
 高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売
 733名
 3月31日

業績予想は、本資料の発表日現在(6月7日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問い合わせ先

株式会社 **サンエー化研**
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719

E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp